

2. 火山の概況 (平成 15 年 4 月 3 日 ~ 平成 15 年 4 月 9 日)

浅間山ではごく小規模な噴火があった。三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いている。阿蘇山では昨年来多発していた孤立型微動が減少傾向にある。霧島山では一時的に地震が多くなった。桜島では噴火があった。諏訪之瀬島では継続時間の長い微動が発生した。

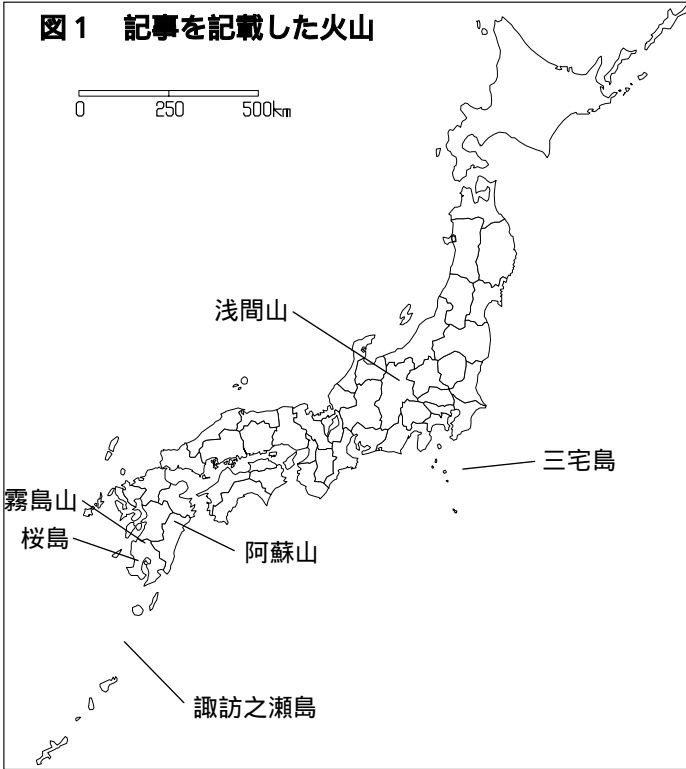


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	磐梯山	浅間山	御嶽山	三宅島	阿蘇山	霧島山	桜島	口永良部島	諏訪之瀬島
15	4/ 3- 4/ 9									
14	3/27- 4/ 2									
13	3/20- 3/26									
12	3/13- 3/19									
11	3/ 6- 3/12									

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ等を示す。

浅間山 [噴煙・火山灰]

7日 09時 24分頃、ごく小規模な噴火が発生し、ごく少量の有色噴煙(灰白色)が火口縁上 200mまで上がり、東に流れているのを確認した(図 2)。有色噴煙の噴出は数分後には収まった。軽井沢測候所による調査では、山腹の道路や居住地では降灰は確認されなかった。この噴火に伴う微動は観測されておらず、また有色噴煙の量もごく少量であったことから、前回(3月 30日)の噴火よりさらに小規模な噴火であったとみられる。なお、その後は有色噴煙は確認されていない。白色噴煙の放出は継続しており、最高は火口縁上 200m(6、9日)であった。

群馬県林務部設置の高感度カメラおよび赤外カメラによる火口内の観測では、火口底が明るくなる現象は確認されていない。

地震回数は、1日当たり 10~20回で、これまでと比べ特段の変化はみられなかった。

GPS 及び傾斜計による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。



図 2 浅間山 4月 7日 09時 24分頃に発生したごく小規模噴火(浅間山の南南東約 8 km の軽井沢測候所より撮影)

三宅島 【火山ガス・熱・噴煙】

9日に気象庁が行った火山ガス観測*では、二酸化硫黄の放出量は日量約3,100~5,600トンと長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図3)。

また、同時に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測*では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から東へ流れていた。山体の地形や火口の状況等に大きな変化はなかった。赤外熱映像装置による観測では、火口内の最高温度は165であった(前回(3月26日)250)。

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、最高は火口縁上600m(6日)であった(前期間1,200m)。

地震活動は低調であった。

GPSによる地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は昨年夏頃からわずかな膨張に転じており、今期間もその傾向が継続した。

* 東京消防庁の協力による

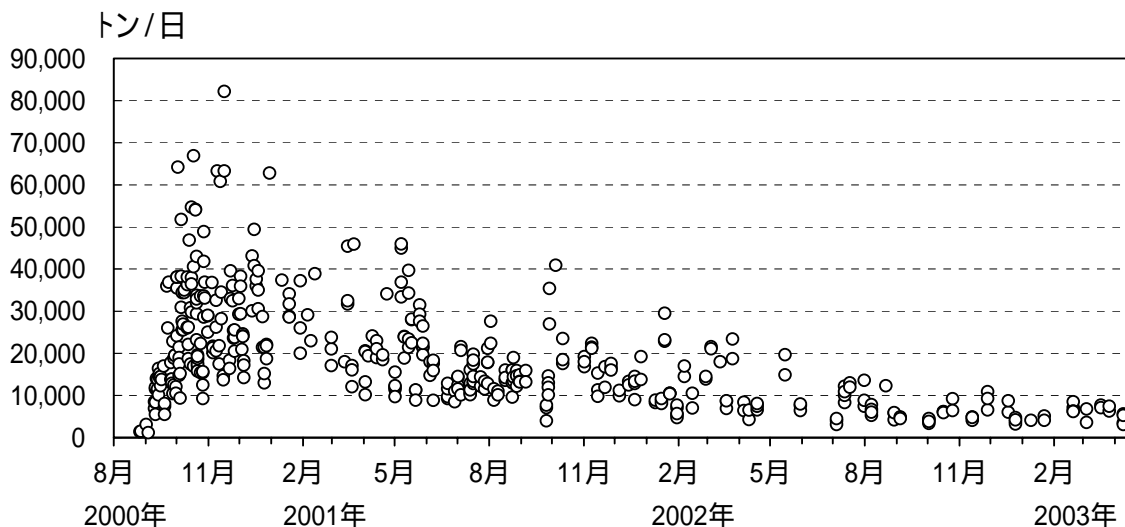


図3 三宅島 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日~2003年4月9日)

阿蘇山 【微動】

孤立型微動の回数は引き続き減少傾向にあり、今期間の発生回数は1日当たり4~29回、合計は117回であった(前期間190回、図4)。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり0~3回で、合計は12回であった(前期間7回)。

白色噴煙は連続的に噴出しているが、最高は火口縁上300m(5日)で、大きな変化はなかった(前期間500m)。また、中岳第一火口内は、依然全面が湯だまり**状態(湯の色は緑色)で、特に異常な変化はなかった。

* 孤立型微動：火口直下のごく浅い場所で発生する継続時間の短い微動。阿蘇山ではこの微動の増減が火山活動を評価する指標の一つとなっている。

** 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50~60度の緑色のお湯が溜まっている(湯だまり)。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を吹き上げる土砂噴現象等が起こり始めることが知られている。

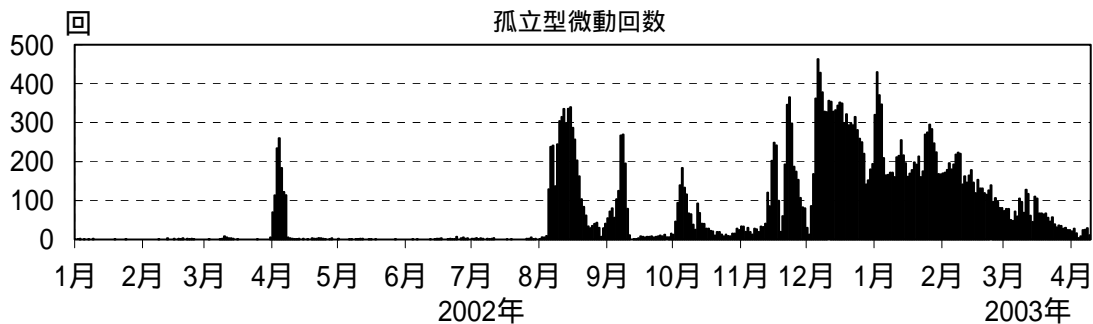


図4 阿蘇山 孤立型微動日別回数(2002年1月1日～2003年4月9日)

霧島山 [地震]

7日に霧島山の北西部を震源とする体に感じない微小な地震が一時的に多く発生した。7日に観測された地震回数は28回で(日回数が20回を超えたのは昨年9月26日(33回)以来)、今期間の合計は45回であった(前期間7回、今年の1月～3月の月平均は約20回)。その後活動は収まり、8日以降地震は観測されていない。

この地震活動の前後で、その他の観測データに特に異常な変化はなかった。

桜島 [爆発・空振・降灰・噴煙]

期間中、2回の噴火があり、いずれも爆発であった(前期間は噴火1回(爆発))。5日の爆発に伴い鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、爆発音(中**)と体感空振(小***)を観測した。また、同気象台における降灰日数は計2日、降灰量はごく微量(合計0.5g/m²未満)であった(前期間は降灰なし)。

噴煙高度の最高は、火口縁上500m(乳白色、4、5日)であった(前期間500m)。

- * 爆発：噴火の一形式で爆発的噴火の略。
- ** 爆発音(中)：誰にも聞こえる程度。
- *** 体感空振(小)：注意深くしていると感じる程度。

諏訪之瀬島 [微動]

期間中、爆発はなかった(前期間もなし)。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落(御岳の南南西約4km)では降灰は確認されなかった。

前期間の2～4日及び9日に継続時間の長い微動がたびたび発生しており、火山活動はやや活発な状態となっている。

地震回数は少ない状態が続き、1日当たり2～8回、合計は32回であった(前期間48回)。

表2 火山情報発表状況

火山名	火山情報名	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第5号	7日 10:20	ごく小規模噴火の発生
三宅島	火山観測情報第181号 (1日2回発表)	3日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)
	火山観測情報第194号	9日 16:30	

<2003年NO.14の訂正>

御嶽山(2～3行目) 「08時09分」を「09時25分」に訂正。